

安倍専一郎

あんべ・せんいちろう

誠之館校医、開業医(内科・小児科)

経歴

生: 明治28年(1895年)9月6日、福山市桶屋町生まれ、(本籍地: 福山市米屋町393番地)

没: 昭和62年(1987年)4月19日、享年92歳

明治42年(1909年)	14歳	広島県立福山中学校(誠之館)入学
大正2年(1913年)3月	18歳	広島県立福山中学校(誠之館)卒業
大正2年(1913年)	18歳	岡山第六高等学校医科入学
大正6年(1917年)	22歳	岡山第六高等学校卒業
大正6年(1917年)	22歳	九州帝国大学医学部入学
大正10年(1921年)	26歳	九州帝国大学医学部卒業
大正10年(1921年)	26歳	九州帝国大学医学部呉建内科教室、及び伊藤小児科教室勤務
大正12年(1923年)	28歳	福山市米屋町に内科・小児科医院を開業(父親の病院を継ぐ)
昭和14年(1939年)4月30日~42年(1967年)8月31日	30~72歳	広島県立福山誠之館中学校校医嘱託(28年4ヶ月間)
昭和37年(1962年)	67歳	紺綬褒章
昭和57年(1982年)11月1日	87歳	日本医師会長より米寿記念銀杯を受ける
—	—	福山地方書道同好会会長
—	—	百働会福山支部長

生い立ちと学業、業績

明治28年(1895年)9月、故安倍朝五郎の嫡男として福山市桶屋町に生れる。誠之館中学、六高を経て、大正10年(1921年)九州帝国大学医学部を卒業する。九州帝国大学医学部の呉建・内科教室、および伊藤・小児科教室に勤務。大正12年(1923年)福山市米屋町の現住所に開業、今日に至る。

変哲もない臨床医家として大衆に接してきたに過ぎませんが、大学時代に仏教青年会の幹事として応唱し諦悟道の法悦味に浸ることができているので、常にニコニコと患者と患者と医師の三位一体の妙を得て来たことは、何にも増して喜悦に堪えない所。

学校卒業記念写真帳には「さだめし我が命こそ木の葉なれ、舞ふぞ嬉しきこの天地に」と記帳しました。

人生五十恥無功、その元旦餅を口にしながら
「猶ほ未だ世には尽さず広き世の厚き恵を亨くばかりにて」
天地の洪恩に謝しました。

壮年時代より書画骨董の雅趣を味得するに至り、還暦に達するや
「いにしへの聖の書と陶ものは、心の窓を開くよすがに」
と詠み、限りない興趣に陶醉しております。

中学初年時、三井物産に入り活躍せんものと甘味な夢を戴いた勢か、金融経済論にいまもつて傾倒し、斯界の名士の所論卓説に年齒を忘るるの愉悦を感じております。囲碁の醍醐味亦よろし。福山地方書道同好会会長として雅友の出来るのも楽しみの一つ。

戦後革命的とも言われる医薬、化学の進歩に推進せられて食生活も改善され、愈々健康に、人生は長く且つ楽しみのもっとに、余生をも日々是好日の姿にあらせたいと考えております。

趣味は書画骨董、和歌、囲碁。福山市米屋町293。

福山市長徳永豊の施政遂行の強力なブレーンとして知られるが、これも傾倒する人物には尽くしてやまないという氏の気風を物語る一面にはほかならない。

昭和37年(1962年)社会民生事業の功勞により紺綬褒章を受く。

綬章の感にあたりて

「いまさらに 紺綬の誉思ふよう なほもきびしき 世の姿見る」
「無を知るも 無を知らざるも 唯同じ 無の世界をば 前向きに行く」。

父親の安倍朝五郎氏は、もともと井原の出身で、第一高等学校、東京帝国大学医科大学卒業の後、明治24年に福山で医業を始めた。

福山看護婦養成所を設立したり、福山医師会長として活躍、昭和20年4月没(85歳)。

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
03094	安倍専一郎 著 葛原先生童謡碑建設委員会 編	「葛原先生健康」 『ニコピン先生葛原しげる追悼録』、47頁	葛原先生童謡 碑建設委員会	昭和39年
02060	安倍専一郎 著 福山誠之館同窓会 編	「誠之館在校中の思い出」 『懐古ー誠之館時代の思い出ー』、6頁	福山誠之館同 窓会	昭和58年
03861	国書刊行会 編	「ベレー帽の先生(安倍専一郎)」 『日本仁医物語 中国・四国編』	国書刊行会	昭和59年

出典1:『備後備中肖像名鑑』、24頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和37年8月

出典2:『政治産業文化備後綜合名鑑』、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和34年9月

出典3:『誠之館百三十年史(上巻)』、1188頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典4:『誠之館百三十年史(下巻)』、30頁、福山誠之館同窓会編刊、平成元年3月31日

出典5:『日本仁医物語 中国・四国編』、131頁、「ベレー帽の先生(安倍専一郎)」、国書刊行会編刊、昭和59年1月30日

出典6:『備後備中先覚者名鑑 郷土を創った人々(上巻)』、14頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和36年8月

2005年7月6日更新:出典●2006年6月1日更新:タイトル●2007年7月18日更新:経歴●2007年8月10日更新:関係資料●2007年11月2日更新:経歴・本文●2008年2月14日更新:経歴・本文●2009年7月7日更新:関連情報●2011年8月17日更新:誠之館所蔵品・関連情報(削除)●2011年8月18日更新:写真・誠之館所蔵品●